

創設 130 周年に向け、地域市民と共に今動き出す

大牟田天領病院だより vol.3

第4回メディカルセミナー 開催



熊本大学大学院
生命科学研究部 消化器外科学
教授 馬場 秀夫 先生

熊本大学医学部消化器内科学教授・附属病院副院長の馬場秀夫先生に、「外科治療の現状と今後の医療」のテーマでご講演をいただきました。

ご講演では、外科医は手術技能とともに正確な診断と手術計画の立案能力、手術後の予測される合併症の対策を組み立てる能力も重要であることを示されました。その能力を高めるためには常に患者から学び、先輩から学び、新しい医療情報を求めるとともにチーム医療を展開する修練が重要であることを強調され、その結果、患者と家族に貢献できることを示されました。



熊本大学名誉教授
社会保険大牟田天領病院
病院長 興梠 博次

次に、現在の最先端の手術を紹介され、転移のある癌も手術で切除しながら薬や放射線等を駆使して治療をもたらすことも紹介されました。また、コンピュータを使用したAI診療、そしてロボットを使用した手術、遠隔地からの診療の現状や将来像を紹介いただき、医療の大きな転換期であることを提示されました。これらの最先端の医療の現場を紹介するとともに、患者様と常に接することで総合的な病状をキャッチすることが可能となり、同時に患者様との心のつながりをつくる医療を強調され、時代が変わっても医療の基本軸は不変であることを御教示いただきました。病院職員に加えて関連施設の医師・看護師・コメディカルのスタッフ、そして本院を支えて頂きました熊本大学消化器外科の若手医師も参加していただき、約170名で予定の時間を越えた質疑応答がなされました。本院ならびに地域の医療に大きな示唆をいただいた講演でした。馬場教授に感謝申し上げます。

興梠病院長から松村先生へ



消化器外科部長
松村 富二夫

Q. 慎重で丁寧な仕事で外には見えない心配りを積み重ねておられますが、その原点は？

A. 診療に際し、この先に起こり得ることを常に予測して対策をしています。朝、出勤する時も消灯や戸閉をもう一度確認することを心がけています。心配性なのだと思いますが、慎重かつ丁寧に診察を継続します。ちなみに血液型はA型ですが、A型の皆様はいかがですか？

興梠病院長から橋本先生へ



消化器外科副部長
橋本 大輔

Q. 3S（スピード、サービス、サイエンス）で活躍されていますが、その原点は？ スポーツも好きかな？

A. 私はまだまだ修行中の身であり、活躍などという評価を頂ける立場には至っていないと思います。しかし、常に挑戦し続ける、自分に負荷をかけていくという心構えを持つにはしています。大学のころは、ボート部に所属していました。今は本格的にスポーツをすることはありませんが、アウトドアに出かけたいなと思っています。